

キャリア教育における「短期インターンシップ」の実践と課題

山野明美¹⁾・平井松午²⁾・大淵朗²⁾

¹⁾徳島大学総合教育センターキャリア支援部門

²⁾徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1. はじめに

徳島大学では2011年4月の文部科学省大学設置基準の改定に伴い、4年一貫のキャリア教育プログラム(単立ちプログラム)を同年4月から実施している。

2012年度からは、産業界等と緊密な連携のもとに就業力育成の観点から大学のキャリア教育を点検し、産業界等のニーズに応えうる人材養成を推進していくことを目的とした「産業界等との連携による中国・四国地域人材育成事業」を実施している。

2011年4月から始まった「単立ちプログラム」は4年目に入り、「短期インターンシップ」(通年)も開講され2年目になる。本報告では、3年生対象の単位化となって2年目の「短期インターンシップ」の実施状況を報告するとともに、各種アンケート調査結果ならびに学生の報告・レポート等の分析、そして就活解禁日の後ろ倒しに伴い、新たな課題が浮かび上がった今後の課題等について述べる。

2. 「短期インターンシップ」の授業内容

「短期インターンシップ」の授業で昨年度と異なる点は、事前学習の充実を図るため、授業数を1コマ増やし9コマとしたことである。それは、インターンシップの意義や目的を明確化し、学生に周知徹底させるためである。学生や企業等に対してそれらを説明する機会や海外インターンシップについての説明も加えた。外部講師の講義に際しては、「考え抜く力」の養成を実践していく「前に踏み出す力」を培うため、大人数の授業であっても積極的な質問をする態度を養う工夫をした。

また、法律知識のみならずインターンシップに関する共通認識の醸成に努めた。「先輩によるインターンシップ体験談」は、傾聴力を鍛えるには効果的であった。インターンシップ授業は、事前学習・学外研修・事後学習が揃って完結となる。本学の場合、カリキュラム上授業としての事後学習時間は確保できていない。そこで、本年度初めての試みとして「インターンシップ事後報告会」を開催した。企業はじめ学生、教職員約

100名の参加を得て有意義な報告会となった。

3. 採用選考の後ろ倒しについて

これまで12月であった会社説明会解禁日が大学3年次の3月となった。また、面接をはじめとする採用選考解禁が大学4年次の8月からとなり、4カ月後ろ倒しとなった。こうした就活時期の後ろ倒しによる学生や企業への影響がどのようなことにつながってくるのか、インターンシップに照らし合わせて考えてみた場合、多少なり影響が出ることが分かった。特に大手企業ほど、それは顕著である。本学の特長として学生の7割が県外就職志望者であるため、学生にとっては、夏休みは国内外でのインターンシップに専念できる時期でもあり、今年度は、海外インターンシップ経験者が3名あった。ただし、昨年度までは海外に留学していると就活のスケジュールに間に合わないということもあったが、就活後ろ倒しによりそれは解消できている。

一方、就活が短期集中になるため、企業間の面接や採用試験の日程が重なることも予想される。さらに公務員試験の採用も加わってくるので、学生はこれまでのように何社も掛け持ちして受験することが難しくなると考えられる。今後は就職浪人や留年する学生等が増えないためにも、県外志望者には、自由応募インターンシップ体験により自分の適性、働く上で求められる能力、企業内容を知る機会とする必要があると考える。大学提携先企業でのインターンシップ体験は、徳島県内で就職希望がある者には県内の企業を知るよい機会となる。さらに就職だけを意識するのではなく、インターンシップ先で、働くことの意義を考え、学生ならではの視点により、職場への提案等もできる「考える力」「前に踏み出す力」を培う場となることは言うまでもない。

4. 「短期インターンシップ」実施上での工夫点

1) 履修者の決定

「短期インターンシップ」は、3年生対象に単位化されて2年目となり、2単位の選択必修の授業として行われ

ている。表1に示すように、総合科学部および工学部の合同クラスとして月・水曜日に2クラスを開講し、382名（総合科学部59名、工学部323名）が受講した。当初予定していた履修枠(330名)を超えた52名のインターンシップ先については、大学提携企業の受入人数の関係上、自由応募型のみとした。履修枠である330名の学生のインターンシップ生は、大学提携企業、学科紹介（建設工のみ）、自由応募の中から選択できるものとしている。

表1 「短期インターンシップ」履修者数

	2013年度	2014年度	増減
総合科学部	74	59	-15
工学部	254	323	+69
合計	328	382	+54

5. 授業改善に向けて

1) 昨年度の課題

- ①大学提携企業等の実習に行った学生が大半であった。
- ②学内で抽選となり、本人の希望する業界等での実習に行くことができなかった学生が多く出た。
- ③徳島県就職志望者が、自らが本命とする企業での実習が叶わないという状況があった。
- ④受け入れ企業側からは、徳島県内の就職希望者のみを求める企業があり、県外出身学生が実習決定になった場合、受入辞退を大学側に伝えてきた企業が出てきた。

2) 本年度の改善策

- ①自由応募型を第一優先とし、県外就職志望者には、特に自らが目指す企業、業界等への積極的な自由応募を試みた。
- ②大学提携企業は、徳島県内志望者を優先とした。
- ③自由応募型は、必ずしもエントリーシートが通過するとは限らない。その場合には、対応策として大学提携先企業を紹介した。ただし、履修者枠抽選に該当した330名に限った。

6. 徳島大学キャリア支援室提携企業開拓について

インターンシップ先の開拓は、キャリア支援室が中心となり行っている。具体的には、新卒採用を行っている企業を、「とくしま企業ガイド」（徳島県経営者協会発行）やナビサイト、徳島大学への求人票をもとに

リストアップし、そこから本学の志望者が多い製造業、金融業を中心に絞り込んでいる。絞り込みの際は、前年度「短期インターンシップ」受講者の学科構成を見て、業種・職種のバランスに留意している。また、依頼状を送付していないが、企業から受け入れの連絡がある場合には、受入れ依頼をしている。表2に示すように受け入れ企業数は増加している。

表2 徳島大学キャリア支援室提携企業数

	2012年度	2013年度	2014年度
依頼状を送付した企業数	98	250	270
受け入れ企業数	54	96	103
受け入れ可能人数	240	370	403
派遣した学生数	169	288	197

7. 「短期インターンシップ事後報告会」の実施

本年度初めて「短期インターンシップ事後報告会」を開催した。

- ①日時：2014年10月25日（土）午前10時～12時
- ②場所：徳島大学工業会館
- ③対象：企業・官公庁・学生・教職員
- ④発表学生11名のインターンシップ先
テック情報株式会社・株式会社阿波銀行・日亜化学株式会社・日新酒類株式会社・四国放送株式会社・徳島県庁・京セラ株式会社・メタウォーター株式会社&株式会社近畿日本ツーリスト中国四国・セイコーエプソン株式会社・株式会社東芝・ベンチャー企業 等

8. 今後の課題

- 1) 大学の授業の追試と企業のインターンシップ期間とが重なることがあり、学生は試験を優先するため、企業側から欠席することへのクレームがあった。追試の日程とインターンシップ期間が重ならない工夫が必要であると考えられる。留学生には、特にビジネスマナーを強化する必要があると考える。
- 2) 大学提携先企業のプログラム及び日程等の明確化が望まれる。特に学生には大きな問題となっている。
- 3) 就活の後ろ倒しによる対応が必要であると考えられる。

謝辞

徳島大学キャリア支援室の職員の方々には、大変お世話になりました。ここに記して深く感謝いたします。